ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【室生ダム水環境改善事業　事後評価　】

平成２７年 ３月

【室生ダム水環境改善事業　事後評価】

１．室生ダム及び流域の概要
特になし

２．事業の概要
特になし

３．事業効果の発現状況
特になし

４．費用対効果の算定
特になし

５．事業実施による環境の変化

項目	意　　見	整　理　状　況	今後の対応方針
P.37	本事業による周辺への自然環境や生活環境等へ及ぼす影響はないと言い切っているが、副ダムに堆積した土砂底層の嫌気化により可溶化したリンが増えている可能性があり、またこれが淡水赤潮の発生とリンクしている可能性もあるため、影響がないという根拠があいまいである。汚染物質が出続けているのは間違いなく、底質に溜まっているため、国・機構・県・市で連携・議論して解明していくべきであろう。地球温暖化で貯水池の水温が上がると溶出速度が増加することもある。これからも問題を抱える可能性があるため、5年～10年にこのような視点から整理するべきではないか。	【当日回答】 今後、モニタリングは管理者とも連携してしっかりやっていく。 【資料修正】 無し	平成２７年度に先生の意見を伺いながら「室生ダムの貯水池水質調査計画」の見直しを行う。 また、「室生ダムの貯水池水質調査計画」の見直しと並行して実施可能な内容については先行して平成２７年度に実施する。 【水資源機構 対応】

６．社会経済情勢の変化等
特になし

７．今後の事後評価の必要性
８．改善措置の必要性
９．同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

項目	意　　見	整　理　状　況	今後の対応方針
P.38 P.39	流域の関係者の連携（清流ルネッサンス）により水質がよくなってきている。河川の評価方法の問題であるが、この事業による効果がどこまでなのかを明らかにする必要がある。例えば、負荷量の低下は下水道・浄化槽、規制の貢献度もある。評価として長期的にやらないといけない。	【委員会当日回答】 流入水質はほぼ横ばいであるため、曝気施設によるアオコ抑制の一定の評価をしてもよいのではと考えている。また、便益算定のアンケートは、曝気施設を導入したことによるアオコ減少の取組自体に対する支払意志額を尋ねたものとなっている。したがって今回の算定した便益は、本事業に対してものと考えている。 【資料修正】 意見も踏まえて今後の対応について資料への追記及び修正を行う。 ７．今後の事後評価の必要性 「ただし、今後も継続して貯水池の状況を確認します。」を追記 ８．改善措置の必要性 今後の調査継続について、「水質調査と淡水赤潮発生要因の調査検討を継続していきます。また、副ダム上下流における生物等への影響についても調査を継続します。」と修正し、具体の内容を明記する。 ９．同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 「今後、「室生ダムの貯水池水質調査計画」を見直し、継続して貯水池の状	平成２７年度に先生の意見を伺いながら「室生ダムの貯水池水質調査計画」の見直しを行う。 また、「室生ダムの貯水池水質調査計画」の見直しと並行して実施可能な内容については先行して平成２７年度に実施する。 【水資源機構 対応】